

平成21(2009)年度  
事業報告書

(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

学校法人 武蔵野美術大学

# 目 次

I. 法人の概要	P1
1. 建学の精神・教育理念	P1
2. 法人及び設置学校の沿革	P1
3. 設置する学校・学校・学科等	P1
4. 設置する附属機関	P2
5. 学外施設	P2
6. 当該学校の所在地	P2
7. 設置する学校・学部・学科等の学生数	P3
8. 役員、教職員等の概要	P4
II. 事業の概要	P5
1. 平成21年度重点課題	P5
2. 重点課題に基づく事業計画とその進捗状況	P6
3. その他の事業実績	P8
III. 財務の概要	P14
1. 経年比較	P14
2. 主な財務比率比較	P16

# I. 法人の概要

## 1. 建学の精神・教育理念

武蔵野美術大学は、1929年の創立当初から幅広い教養を備え、人格的にも優れた美術・デザインを中心とする造形各分野の専門家養成という教育理念をもち続けてきました。それは、総合性と専門性の融合に深く留意し、「真に人間的自由に達するような美術教育」「教養を有する美術家養成」を掲げた建学の精神の堅持でもあります。

## 2. 法人及び設置学校の沿革

昭和 4(1929)年	帝国美術学校開校 (北多摩郡武蔵野町吉祥寺)
昭和22(1947)年	造型美術学園と校名変更
昭和23(1948)年	武蔵野美術学校と校名変更
昭和32(1957)年	学校法人武蔵野美術学校認可 武蔵野美術短期大学設置
昭和34(1959)年	短期大学通信教育部開設
昭和36(1961)年	鷹の台校(現鷹の台キャンパス)開設
昭和37(1962)年	学校法人武蔵野美術大学に改称 武蔵野美術大学設置、造形学部開設
昭和44(1969)年	鷹の台キャンパスに全学統合 武蔵野美術学園開設
昭和48(1973)年	大学院造形研究科(修士課程)を開設
昭和63(1988)年	武蔵野美術短期大学を武蔵野美術大学短期大学部に名称変更
平成14(2002)年	造形学部通信教育課程開設
平成15(2003)年	武蔵野美術大学短期大学部廃止
平成16(2004)年	大学院造形研究科に博士後期課程設置 新宿サテライト開設

## 3. 設置する学校・学部・学科等(平成21年5月1日現在)

### (1) 武蔵野美術大学

大学院	造形研究科	博士前期課程(修士課程)	美術専攻
			デザイン専攻
		博士後期課程	造形芸術専攻
造形学部	日本画学科		
	油絵学科		油絵専攻
			版画専攻
	彫刻学科		
	視覚伝達デザイン学科		
	工芸工業デザイン学科		
	空間演出デザイン学科		
	建築学科		
	基礎デザイン学科		
	映像学科		
	芸術文化学科		
デザイン情報学科			

造形学部 通信教育課程	油絵学科
	工芸工業デザイン学科
	芸術文化学科
	デザイン情報学科

(2) 武蔵野美術学園

武蔵野美術学園	造形芸術科
	メディア表現科

4. 設置する附属機関

- ・美術資料図書館（鷹の台キャンパス）

5. 学外施設

- ・ gallery α M（東京都千代田区）
- ・ 奈良寮（奈良市）
- ・ 清里山荘（山梨県北杜市）
- ・ 五箇山「無名舎」（富山県南砺市）
- ・ パリ国際芸術都市アトリエ（フランス）

6. 当該学校の所在地

鷹の台キャンパス

法人本部、武蔵野美術大学造形学部（通学課程）、大学院  
〒187-8505 東京都小平市小川町1-736

吉祥寺校

武蔵野美術大学造形学部通信教育課程、武蔵野美術学園  
〒180-8566 東京都武蔵野市吉祥寺東町3-3-7

新宿サテライト（新宿教室）

〒163-0609 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル9階

## 7. 設置する学校・学部・学科等の学生数(平成21年5月1日現在)

武蔵野美術大学

### 【大学院】

研究科	専攻	収容定員	学生数
造形研究科 博士前期課程 (修士課程)	美術専攻	56	116
	デザイン専攻	56	93
	小計	112	209
造形研究科 博士後期課程	造形芸術専攻	18	18
	小計	18	18
合計		130	227

### 【学部】

学部	学科・専攻	収容定員	学生数
造形学部	日本画学科	160	161
	油絵学科	590	610
	[内訳] 油絵学科(H17入学)	0	4
	油絵専攻(H18入学～)	510	503
	版画専攻(H18入学～)	80	103
	彫刻学科	132	145
	視覚伝達デザイン学科	428	443
	工芸工業デザイン学科	562	577
	空間演出デザイン学科	500	518
	建築学科	328	334
	基礎デザイン学科	302	313
	映像学科	340	364
	芸術文化学科	320	340
デザイン情報学科	400	434	
合計		4,062	4,239

### 【通信教育課程】

学部・課程	学科	収容定員数	学生数
造形学部 通信教育課程	油絵学科	980	1,490
	工芸工業デザイン学科	735	495
	芸術文化学科	490	476
	デザイン情報学科	735	628
合計		2,940	3,089
総数		7,132	7,555

武蔵野美術学園

科	収容定員数	学生数
造形芸術科	210	108
メディア表現科	190	52
合計	400	160

## 8. 役員、教職員等の概要(平成21年5月1日現在)

### ・法人役員(理事11名、監事2名)

理事長	高井邦彦
学長・理事	甲田洋二
理事	稲葉直
理事	勝井三雄
理事	高橋陽一
理事	長沢秀之
理事	松家克
理事	大坪圭輔
理事	中川巖
理事	宮崎晋
理事	向山卓二
監事	兼山金刀圀
監事	吉村徳則

### ・評議員 25名

### ・教職員数

専任教員	136名
客員教授	23名
助手	53名
非常勤講師	623名
教務補助員	63名

事務系職員 198名  
(臨時含む)

## Ⅱ. 事業の概要

### 1. 平成 21 年度重点課題

学校法人武蔵野美術大学は、80 周年記念事業、建築計画大綱、大学基準協会による認証評価結果を踏まえた改善・改革等の中長期的な計画を前提として、次のとおり六つの重点課題を設定した。

#### (1)80 周年記念事業の展開

80 周年記念事業を広範な参加のもと、建築事業、文化事業、大学史関連事業、奨学金事業及び募金事業を着実に進める。

- ①美術資料図書館新棟竣工及び旧棟改修設計
- ②世界美術大学学長サミット（仮称）、国際デザインシンポジウム（仮称）、80 周年記念展及び記念式典の開催
- ③80 周年記念誌の刊行
- ④武蔵野美術大学海外留学研究奨励奨学金及び武蔵野美術大学大学院博士前期課程奨励奨学金の設置
- ⑤最終年度を迎える 80 周年記念募金について目標額達成に向けた継続的活動

#### (2)外部資金を導入しての教育研究活動の推進

- ①平成 20 年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」採択事業「造形資料に関する統合データベースの開発と資料公開」の推進
- ②平成 19 年度現代 G P 「E D S 竹デザインプロジェクト」の推進

#### (3)建築計画大綱を中心とした建築事業の実施

大規模な工事としては次の事業を実施する。

- ①美術資料図書館新棟竣工、旧棟改修のための設計
- ②特殊排水工事（第二期）

上記のうち、(仮称)美術資料図書館新棟新築については第 2 号基本金及び文部科学省補助金を充て、他は経常費を充てるものとする。

#### (4)バリアフリー化推進計画策定に向けた調査の実施

鷹の台校、吉祥寺校の 3 層以上の建物について、平成 22 年度以降年次進行でエレベータ設置を図ることを目途に、エレベータ設置のための調査を実施する。

#### (5)鷹の台キャンパスの拡充

ミニサッカー場西側土地（約 1,400 m<sup>2</sup>）を取得し、鷹の台キャンパスの拡充を進める。

## (6)教育研究体制の充実

特別任用専任教員の任用、客員教授の充実をおこなうことなどを含め、本学の教育研究の水準にふさわしい専任教員体制の充実を図る。

## 2. 重点課題に基づく事業計画とその進捗状況

上記の重点課題に基づく事業計画とその進捗状況は次のとおりである。

### (1) 80周年記念事業の展開

80周年記念事業として、以下のとおり記念事業を実施した。

#### ①建築事業

平成 22 年 3 月末日美術資料図書館新棟（仮称）が竣工した。また、平成 22 年度の美術資料図書館旧棟改修工事着工に向け、設計を確定し、施工業者選定を進めた。

#### ②文化事業・行事

- ・以下のとおり 80 周年記念展を開催した。

「絵の力ー絵の具の魔術ー」展

平成 21.7.8～8.15 美術資料図書館展示室、2 号館 gFAL、FAL

「ドローイングー思考する手のちから」展

平成 21.10.31～12.12 2 号館 gFAL、FAL

「権鎮圭 彫刻展」

平成 21.10.19～12.5 美術資料図書館展示室

αM プロジェクト「変成態ーリアルな現代の物質性」展

平成 21.5.9～平成 22.3.20 gallery αM（馬喰町）

「大学院修了展 ‘09ームサパチー」

平成 22.2.21～2.26 東京都美術館」

- ・10 月 31 日朝日ホールにおいて「世界美術大学学長サミットー 美術大学の時代的、社会的意義と使命 生きるをつくる。つくるを生きるー」を開催し、「世界美術大学学長サミット 東京宣言」を採択した。

- ・11 月 1 日朝日ホールにおいて国際デザインシンポジウム「21 世紀高度デザイン教育の展望ー美術大学が拓く新たなるデザイン教育へー」を開催した。

- ・10 月 31 日朝日ホールにおいて 80 周年記念式典を挙行し、その後帝国ホテルにおいて 80 周年記念祝賀会を開催した。

なお、80 周年記念式典では、世界美術大学学長サミット及び国際デザインシンポジウムにおいて基調講演またはパネリストとして出席された海外の 7 名の方々に「学校法人武蔵野美術大学フェロー」の称号を授与した。

#### ③記念誌事業

『武蔵野美術大学のあゆみ 1929ー2009』を刊行し、80 周年記念式典等において配付した。なお、本誌については、これまでの『60 年史』に替え、次年度以降新入生保護者に送



付することとした。

#### ④奨学金事業

平成 21 年度より 80 周年記念奨学金として、「武蔵野美術大学大学院博士前期課程（修士課程）奨励奨学金」及び海外の大学院に進学し研究活動を行う本学卒業生・修了生を対象とした「武蔵野美術大学海外留学研究奨励奨学金」を設置し、3 名に「武蔵野美術大学大学院博士前期課程（修士課程）奨励奨学金」を授与した（海外留学研究奨励奨学金については該当者なし）。

#### ⑤募金事業

平成 18 年度 5 月末から始めた事業の最終年度において、校友、在学生・在学生父母、取引企業（法人）等及び学内関係者に継続して協力を依頼し、募金活動を行い、個人 2,153 件、法人 229 件から寄付があり、目標額 6 億円に対して 4 億 5,435 万円（達成率 75%）の実績額であった。

### (2)外部資金を導入しての教育研究活動の推進

①平成 20 年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」採択事業「造形資料に関する統合データベースの開発と資料公開」の推進

近代デザイン研究プロジェクト、映像研究プロジェクト、民俗造形研究プロジェクトの各プロジェクトを推進した。

②平成 19 年度現代GP「EDS竹デザインプロジェクト」の推進

教育プログラムの他、公開展示会、ワークショップを開催、2 月末から 3 月上旬にインドネシア学生研修を実施、また 3 月 17 日には外部評価委員会を開催した。

③文部科学省平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラムの採択及び推進

「造形ファシリテーション能力獲得プログラム—造形ワークショップの記録と表現による学士力の形成—」が文部科学省の平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラムに採択された。平成 21 年 10 月 29 日及び平成 22 年 2 月 12 日に外部評価委員会を開催、また平成 22 年 2 月 11 日及び 12 日には新宿サテライトで展示会及びシンポジウムを開催し、学外にその成果を公表するとともに、3 月には 2009 年度報告書を刊行した。

### (3)「武蔵野美術大学 2004-2009 建築計画大綱」を中心とした建築事業の実施

①美術資料図書館新棟竣工、旧棟改修のための設計

美術資料図書館新棟を平成 22 年 3 月末に竣工した。なお、次年度改修する旧棟とあわせ、現行の美術資料図書館の名称を平成 22 年度より「美術館・図書館」と改めることを決定した。

②特殊排水工事（第二期）

鷹の台キャンパスの特殊排水管路整備工事について中央・南側ルートを中心とした工事を第二期工事として進めた。また、第二期工事に合わせ、特殊排水処理施設として水処理

棟が平成 21 年 6 月に竣工した。第二期工事に引き続いて、既存老朽配管更新工事を実施し、平成平成 22 年 3 月末に完了した。

#### (4) バリアフリー化推進計画策定に向けた調査の実施

吉祥寺校 1～3 号館のエレベータ設置について調査の結果、当面は見合わせることにした。鷹の台 5A・7・8 号館のバリアフリー対応工事（エレベータ設置）については他の工事と重複しないよう配慮しながら順次行うこととし、先ず平成 23 年度に 5A 号館を先行、7・8 号館については小平 3・3・3 号線に絡んだ建築計画の進行状況に応じて検討することとした。

#### (5) 鷹の台キャンパスの拡充

ミニサッカー場西側土地（約 1,400 m<sup>2</sup>）を取得し、鷹の台キャンパスの拡充を進めた。

#### (6) 教育研究体制の充実

##### ① 特別任用専任教員の採用

専任教員の多様な任用形態を可能にする制度である「武蔵野美術大学特別任用専任教員規則」に基づき、平成 21 年 4 月 1 日付で特別任用専任教員 1 名が着任、さらに平成 22 年 4 月 1 日付 2 名の採用を決定し、専任教員体制の充実を図った。

##### ② 客員教授の拡充

平成 19 年度 13 名、平成 20 年度 18 名、平成 21 年度 23 名と充実を図ってきたが、平成 22 年 4 月 1 日付で 27 名の採用を決定し、客員教授の一層の陣容拡充を進めた。

### 3. その他の事業実績

#### (1) 現行教育課程の検討

平成 15 年度にスタートし、平成 22 年度には二周期 8 年を迎える現行教育課程について、平成 23 年度以降の教育課程の展開に向けて総点検し、今年度は現行教育課程の成立経緯に関する検証及び現状把握（中間報告）、次年度には現行教育課程に関する今後の方向性について答申するよう、学長からカリキュラム委員会に諮問がなされた。カリキュラム委員会ではカリキュラムの点検評価について全教育単位にアンケートを実施し、その後検討を重ね、平成 22 年 3 月 23 日中間報告が学長に提出された。

#### (2) 教育職員免許状更新講習の実施

通信教育課程の夏期スクーリング時期に合わせ、必修領域（教育の新事情）2 日間及び選択領域（美術教育実践研究）3 日間の対面講習を実施し、それぞれ 62 名、69 名を合格とした。また、必修領域及び選択領域について通信講習を実施し、それぞれ 38 名、32 名を合格とした。

### (3)造形学部一般入試の日程変更及び外国人留学生・帰国生特別入試の実施

優秀な志願者確保に向け、平成 23 年度入試より造形学部一般入試の日程を 2 月 3 日～13 日に変更、またこれまで一般入試の振替試験として実施してきた外国人留学生・帰国生の選抜について、編入学試験・転科試験の実施時期（12 月下旬）に特別入試として実施することを決定した。

### (4)gallery αM の開設

昭和 63 年吉祥寺に誕生した「ギャラリーαM」は、平成 10 年から開催期のみ既存のギャラリーを借り受ける、場所を持たない「αM プロジェクト」として、キュレーターや学生が主体となり、都内各所のギャラリーで企画展を開催してきた。

本学は、平成 21 年度に迎える 80 周年を機に、従来からの「ジャンルを問わず質の高い表現と可能性を有するアーティストに作品発表の機会を提供する」、「社会に斬新な価値を発信できるキュレーターに展示企画の場を提供する」という精神を継承し、人々が多様な活動がクロスする有機的な場として、千代田区東神田に「gallery αM」を開設した。

### (5)学生支援の充実

#### ①奨学金等の充実

80 周年記念奨学金「武蔵野美術大学大学院博士前期課程（修士課程）奨励奨学金」、「武蔵野美術大学海外留学研究奨励奨学金」に加えて、「前田常作賞」を今年度より創設した。前田常作賞は故前田常作元学長・名誉教授のご遺族から頂いた寄付金を原資として、大学院油絵コース及び版画コースの優秀な学生に贈る賞で、副賞として年 10 万円を各コース 1 名に贈与された。

#### ②その他の支援

長引く経済不況による雇用環境の急激な悪化により、内定先企業からの内定取消を受けた学生に対して、本学の定める要件を満たした場合に、申し出により学籍継続（卒業、修了の延期）を認める緊急支援策を昨年度に引き続き措置した。学生は、学籍継続の登録料を納入することで半年又は 1 年間学籍が延長となり、既卒者としてではなく、新卒者として再度就職活動を行うことが可能となる。この支援措置を受けることになった学生は今年度 1 名であった。

### (6)国際交流の推進

各種国際交流を推進した。

#### ①協定校との交流

パリ国立高等美術学校、プラット・インスティテュート、アールト大学美術デザイン学部（旧ヘルシンキ美術デザイン大学）、ベルリン芸術大学芸術学部、ミラノ工科大学デザイン学部との学生交流協定に基づき、10 名を受入、本学より 6 名を派遣した。

ロンドン芸術大学との教員交流の一環として昨年度の本学からの教員派遣に続き、今年度は当該大学より 1 名の教員を迎え、授業、ワークショップ及び課外講座を実施した。

また、今年度新たにロードアイランド・スクール・オブ・デザイン（アメリカ）と交流協定を締結した。

#### ②多様な国際交流

訪問教授 10 名、外国人奨励研究員 3 名を受け入れ、23 件の海外からの来訪者があった。

国際交流プロジェクト 4 件（協定校 2 件、協定校以外 2 件）を実施。

#### ③国際機関への加盟

本学の教育研究活動を広く海外にも発信する意味も含め、ICOGRADA（International Council of Graphic Design Associations）及び ICSID（International Council of Societies of Industrial Design）に我が国の教育組織としては初めて加盟した。

### (7)外部資金獲得の促進

本学の平成 21 年度私立大学経常費補助金交付額は、一般補助、特別補助合計 7 億 2,619 万円（昨年度比 925 万円増）で、研究設備整備費等補助金、施設整備費補助金、私費留学生修学援助費補助金、大学教育・学生支援推進事業【テーマ A】大学教育推進プログラムの補助金を含めると 11 億 9609 万円（昨年度比 3 億 5,712 万円増）となった。

### (8)各部の取組

#### <企画部>

① 第 4 期自己点検評価委員会において大学院を自己点検項目とすることを決定、専任教員を対象にアンケートを実施し、昨年度実施した全大学院生を対象としたアンケートと併せて分析、検討を進めた。

②6 月に『60 年史』を平成 21 年度新入生保護者へ送付した。

③80 周年記念誌を始めとする 80 周年事業に係る印刷物・映像作成について資料提供等支援を行った。

④平成 22 年 3 月に大学史資料集第七集「金原省吾日記」を刊行した。

⑤資料保存・利用のための環境を整備した。

⑥田中誠治記念室の開設準備支援を行った。

⑦最終年度となる平成 19 年度現代 GP「EDS 竹・デザインプロジェクト」を推進した。

⑧平成 20 年度に取り組んだ産官学受託研究及び現代 GP「いわむろのみらい創生プロジェクト」及び「EDS 竹デザイン・プロジェクト」の成果を 6 月のオープン・キャンパスにおいて展示、また 8 月東京ビッグ・サイトで開かれた「グッドデザイン・エキスポ 2009」のデザイン・コミュニケーションに出展した。

#### <総務部>

①施設管財課に機械警備システムを導入し、キャンパスセキュリティーの促進を図った。

②長時間労働者に対して産業医との面談を実施、教職員のメンタルヘルス・ケアを講じた。また、平成 22 年度からの導入に向け、メンタルヘルス・ケアに関してコンサルタントと契約を交わした。

③「学校法人武蔵野美術大学資産運用規則」を制定した。

- ④ホームページ等で公開する財務関連資料について、一層充実させた。
- ⑤建築計画大綱に基づく建築工事を中心に各種工事を進め、教育研究環境の改善を進めた。
- ⑥小平3・3・3都市計画道路に関連して小平市との面談を通じて意見交換を重ねた。
- ⑦ネットワーク回線の増速・冗長化、データセンターの活用及びネットワーク機器の更新を完了した。
- ⑧電話交換機システムの更新を行った。

<教務部>

- ①「教員プロフィール集2009」を10月に刊行し、11月にはWEB上で公開した。
- ②平成21年度大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラムに申請し、「造形ファシリテーション能力獲得プログラム」が採択された。
- ③平成21年度私立大学経常費補助金「高度情報化メニュー ITC活用教育支援」に申請し、補助金獲得の内示を受けた。
- ④第二校舎に共用工作室を開設した。

<学生部>

- ①臨床心理士による相談日を一日増やし、教員相談員の相談日を含め月曜から土曜まで相談室を開室する体制に変更し、学生相談の充実を図った。
- ②新生生に対して麻疹予防対策として入学前の予防接種協力・要請を行い、教育実習・介護等体験・博物館実習等の受講生に対しては抗体検査及び予防接種費用の全額を補助した。
- ③秋に集中的に多くの学生が新型インフルエンザに罹患したが、学生及び教職員への感染予防と感染拡大防止、罹患状況の把握、罹患学生への対応指導に努めた。
- ④新生生オリエンテーション時に薬物乱用対策のパンフを配布するとともに注意喚起を促すとともに、ポスターを掲示するなど警察との連携を図った。
- ⑤進路インフォメーション誌を改訂し、より実践的な内容で携帯可能な体裁に改めた。
- ⑥就職活動開始時期に対応した計画的な就職ガイダンスを実施するとともに、100回を超える会社説明会を開催した。
- ⑦本学学生が従来は対象外としていた職種である総合職を、企業が求めるデザインセンスのある学生の就職先として開拓し、間口を広げることに努めた。
- ⑧インターシップの効果的な運用に向けた基礎データ収集のためにアンケートを実施し、その結果を踏まえ新たなインターシップの進め方について検討した。

<通信教育課程>

- ①通信教育課程教科書として、「絵画空間を考える」、「日本画の用具用材」及び「映像表現のプロセス」の3冊を刊行した。
- ②通信教育課程コンピュータサーバのリプレースを実施、また安全管理強化のため監視体制を24時間監視に移行した。
- ③学生募集ツールの新たな展開として、平成22年度実施に向けて通信教育課程Webサイト等の充実策の検討・準備を行った。
- ④平成21年度卒業制作展を平成22年3月13日(土)～16日(火)の4日間、鷹の台校9号

館、10号館並びに工房-5の各教室及び展示室において開催した。入場者数は4日間で1,393名の来場があり入場者数はこれ迄で最多であった。

<美術資料図書館>

- ①美術資料図書館新棟新築に伴う移設、新規オープン等に関する事業を推進した。
- ②旧棟改修工事に伴う美術作品の外部保管委託を完了した。
- ③美術資料図書館運営体制について、職員体制の見直し、資料収集体制の整備等見直し及び強化を図った。
- ④造形研究センター関連業務として、図書資料・美術資料・民俗資料・映像資料の統合検索システム構築の推進、近代デザイン研究プロジェクト・映像研究プロジェクト・民俗造形研究プロジェクトの3プロジェクト推進、協力し、計画調書に示されたとおり、それぞれの研究計画の実施を終えた。
- ⑤80周年記念行事展覧会として、「絵の力展」「権鎮圭展」「ドローイング展」の3本の展覧会を実施した。
- ⑥平成22年6月学内公開に向け、美術館資料管理システム（富士通「ミュージズテーク」）の導入を図った。
- ⑦平成22年5月新棟オープン時からの稼働に向け、図書館システムパッケージ（富士通「アイリスウェブ」）のリプレイスを完了した。
- ⑧美術資料図書館全体としての私学助成補助金申請の拡大について、当館の重点項目として取り組みを継続した。
- ⑨民俗資料の整理と基本情報の整備について計画どおり進め、7000点の画像データ作成を完了し公開に備えた。
- ⑩イメージライブラリー移転について22年度移転を目途に、計画どおり準備を進めた。

<国際センター>

- ①交換留学の実施、訪問教授の招聘、外国人研究員の受け入れ、年間23件の来訪者対応など海外との交流を進めた。
- ②パリ賞2名を委員会において選考し、パリ国際芸術都市に派遣した。
- ③80周年記念事業に関し、海外からのゲストの招聘、滞在中のサポート、英文ツール全般の監修など支援した。
- ④学内の各研究室が行う国際的な教育活動に対する国際交流プロジェクト（4件）及び学生による交流企画プロジェクト（2件）に対し、経費を補助した。
- ⑤留学生に対して面接を実施し、留学生の学習・生活状況他把握に努めた。
- ⑥協定留学説明会、留学オリエンテーションを実施した。
- ⑦国費留学生（大学院生レベル）のための日本語授業・初級の上クラスを開設した。

<広報入学センター>

- ①平成22年度より広報印刷物の内容を刷新するため、コンペ形式によって委託業者を選定し新たな制作体制を整備した。
- ②情報の整理と、主に受験生の利便性を考慮して、大学ホームページをリニューアルした。具体的には、トップページ及び美術資料図書館と通信教育課程、武蔵野美術学園を除く事

- 務系ページについて、英語ページを含めて全面的に刷新し、同時に携帯サイトも構築した。
- ③BS 日テレで放映されたテレビ番組「大学を知ろう」により大学紹介テレビ番組を制作、その後 DVD 化し受験生に配付するとともに、大学ホームページでも配信した。
  - ④α Mプロジェクトについて、千代田区東神田に新ギャラリー（gallery α M）を開設し、当地で 80 周年記念展「変成態」を年間 8 回の企画展として開催した。
  - ⑤校友会との共催により、地域フォーラム「アート&デザイン 2009 首都圏・小平スケッチワークショップ」を、小平市の協力を得て開催した。また、80 周年記念として校友会が主催したスーパーホームカミングデーの開催に協力、12 月に鷹の台ホールを会場として実施した。
  - ⑥銀座アートエクステンションスクール主催の銀座スペースデザインコンペ（東京 6 美大参加）に参加した。本学学生の企業賞獲得はならなかった。なお、現形式での銀座でのコンペは今回が最終回となった。
  - ⑦80 周年記念大学院修了展「ムサパチ」を 2 月 21 日から 26 日の会期で東京都美術館において開催、2,906 名の来場者があった。
  - ⑧進学相談会について、総来場数は昨年度を若干下回ったが、このほかに一般系の進学相談会（実技系でなくても受験できる学科があるので）への参加も試みた。東京会場（本学）は、地方進学相談会の日程の都合もあり多摩美術大学の進学相談会と同日開催となったが、総来場者数は前年比 93%にとどまった。また、芸術祭期間中に開催するミニ進学相談会は、80 周年記念イベントもあり 4 日間開催し、充実を図った。
  - ⑨21 年度中の高校へ出張説明会・模擬授業は 115 件（うち模擬授業 23 件）実施、予備校での説明会は 16 件実施した。高校出張説明会、予備校の件数はほぼ前年どおりであるが、模擬授業の件数はかなり増加している。またこのほか、本学での見学案内（高校等からの訪問）は 33 件対応している。
  - ⑩造形学部建築学科において公募制推薦入学試験を導入し、入試の多様化を図った。
  - ⑪新型インフルエンザ対策として、造形学部一般入試において罹患の疑いがある受験生の別室受験を認めるとともに追試験を実施した。また、公募制推薦入試及び 3 年次編入学試験においても追試験を実施した。

以 上

### Ⅲ. 財務の概要

#### 1. 経年比較

##### (1) 貸借対照表

(単位:千円)

科 目	平成17年度末	平成18年度末	平成19年度末	平成20年度末	本年度末
固定資産	32,433,210	33,894,715	35,057,999	36,733,419	37,412,544
流動資産	8,693,938	9,091,492	8,915,232	7,685,281	8,448,162
資産の部合計	41,127,148	42,986,207	43,973,231	44,418,700	45,860,706
固定負債	1,865,680	1,818,255	1,805,471	1,783,072	1,792,368
流動負債	2,437,371	2,862,937	2,565,476	2,520,857	2,608,621
負債の部合計	4,303,051	4,681,192	4,370,947	4,303,929	4,400,989
基本金の部合計	34,693,599	36,223,002	37,695,499	39,521,903	40,353,424
消費収支差額の部合計	2,130,498	2,082,013	1,906,785	592,868	1,106,293
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	41,127,148	42,986,207	43,973,231	44,418,700	45,860,706

##### (2) 収支計算書

##### ① 資金収支計算書

(単位:千円)

科 目	平成17年度末	平成18年度末	平成19年度末	平成20年度末	本年度末	
収入の部	学生生徒等納付金収入	8,372,367	8,371,651	8,416,734	8,416,395	8,415,562
	手数料収入	283,864	281,461	340,409	302,336	262,129
	寄付金収入	61,879	130,956	107,092	97,513	100,758
	補助金収入	735,844	705,718	849,207	839,342	1,196,086
	資産運用収入	34,468	144,760	207,501	131,423	64,548
	資産売却収入	0	0	0	9,419	0
	事業収入	35,279	39,249	39,639	37,952	34,417
	雑収入	199,571	151,479	343,316	330,493	275,706
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	1,899,902	1,926,422	1,919,629	1,951,545	1,975,520
	その他の収入	1,022,277	2,386,112	1,498,829	1,549,124	1,552,561
	資金収入調整勘定	△ 2,243,390	△ 2,080,046	△ 2,307,672	△ 2,250,954	△ 2,631,636
	前年度繰越支払資金	8,550,664	8,077,737	8,429,074	8,152,840	7,101,911
	収入の部合計	18,952,725	20,135,499	19,843,758	19,567,428	18,347,562
支出の部	人件費支出	4,613,818	4,727,607	4,974,171	4,982,941	4,902,031
	教育研究経費支出	2,449,058	2,329,653	2,373,263	2,874,247	2,348,922
	管理経費支出	697,749	700,058	755,831	808,546	876,966
	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	1,955,267	2,757,569	2,000,288	2,649,264	1,773,489
	設備関係支出	173,762	459,587	315,667	214,529	693,302
	資産運用支出	990,214	861,333	1,055,582	997,123	324,296
	その他の支出	451,593	696,502	878,506	557,232	522,203
	資金支出調整勘定	△ 456,473	△ 825,884	△ 662,390	△ 618,365	△ 564,625
	次年度繰越支払資金	8,077,737	8,429,074	8,152,840	7,101,911	7,470,978
	支出の部合計	18,952,725	20,135,499	19,843,758	19,567,428	18,347,562



②消費収支計算書

(単位:千円)

科 目		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	本年度
消費 収入 の 部	学生生徒等納付金	8,372,367	8,371,651	8,416,734	8,416,395	8,415,562
	手数料	283,864	281,549	340,889	302,336	262,129
	寄付金	69,438	292,782	109,674	103,729	125,156
	補助金	735,844	705,718	849,207	839,342	1,196,086
	資産運用収入	34,468	144,760	207,501	131,423	64,548
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	事業収入	35,279	39,249	39,639	37,952	34,417
	雑収入	199,571	151,479	343,316	330,493	275,706
	帰属収入合計	9,730,831	9,987,188	10,306,960	10,161,670	10,373,604
	基本金組入額合計	△ 1,676,032	△ 1,529,402	△ 1,472,498	△ 1,826,403	△ 831,522
	消費収入の部合計	8,054,799	8,457,786	8,834,462	8,335,267	9,542,082
	消費 支出 の 部	人件費	4,575,639	4,680,181	4,961,387	4,960,542
教育研究経費		3,066,134	3,010,383	3,176,710	3,701,820	3,171,973
管理経費		756,395	776,232	844,088	907,416	972,525
借入金等利息		0	0	0	0	0
資産処分差額		54,733	39,474	27,505	79,406	3,465
徴収不能引当金繰入額		0	0	0	0	0
消費支出の部合計		8,452,901	8,506,270	9,009,690	9,649,184	9,028,657
当年度消費収支超過額	△ 398,102	△ 48,485	△ 175,228	△ 1,313,917	513,425	
前年度繰越消費収支超過額	2,528,600	2,130,498	2,082,013	1,906,785	592,868	
基本金取崩額	0	0	0	0	0	
翌年度繰越消費収支超過額	2,130,498	2,082,013	1,906,785	592,868	1,106,293	

## 2. 主な財務比率比較

消費収支計算書及び貸借対照表から、本学の過去5年間の財務比率を計算し下表に示した。なお、「評価」欄は日本私立学校振興・共済事業団による評価を、「芸術系学部平均」欄は芸術系19法人の平成20年度の平均値を表したものである。(いずれも日本私立学校振興・共済事業団編『今日の私学財政』平成21年度版による)

消費収支計算書関係財務比率

比率	算式(×100)	評価	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	本年度	(単位:%) 芸術系 学部平均
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	↗	13.1	14.8	12.6	5.0	13.0	2.3
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	—	86.0	83.8	81.7	82.8	81.1	76.5
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	↗	0.7	2.9	1.1	1.0	1.2	0.5
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	↗	7.6	7.1	8.2	8.3	11.5	9.1
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	↘	47.0	46.9	48.1	48.8	47.0	54.4
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	↗	31.5	30.1	30.8	36.4	30.6	29.9
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	↘	7.8	7.8	8.2	8.9	9.4	10.4
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{帰属収入}}$	↘	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	↗	17.2	15.3	14.3	18.0	8.0	10.7
減価償却費比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{消費支出}}$	—	8.3	8.7	9.7	9.7	10.2	11.1
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	↘	54.7	55.9	58.9	58.9	58.0	71.1
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	↘	104.9	100.6	102.0	115.8	94.6	109.4

貸借対照表関係財務比率

比率	算式(×100)	評価	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	本年度	(単位:%) 芸術系 学部平均
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	↗	89.5	89.1	90.1	90.3	90.4	89.0
消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資金}}$	↗	5.2	4.8	4.3	1.3	2.4	-2.2
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	↘	88.1	88.5	88.5	91.6	90.2	99.0
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	↘	83.8	84.5	84.7	87.7	86.5	92.7
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	↘	78.9	78.9	79.7	82.7	81.6	88.2
有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	↘	44.1	48.2	50.4	54.1	56.6	55.1
その他の固定資産構成比率	$\frac{\text{その他の固定資産}}{\text{総資産}}$	↗	34.8	30.6	29.4	28.6	25.0	33.1
流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	↗	21.1	21.1	20.3	17.3	18.4	11.8
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	↗	356.7	317.6	347.5	304.9	323.9	243.0
退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	↗	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	65.7
固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資金}}$	↘	4.5	4.2	4.1	4.0	3.9	6.1
流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資金}}$	↘	5.9	6.7	5.8	5.7	5.7	4.9
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	↘	10.5	10.9	9.9	9.7	9.6	11.0
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	↘	11.7	12.2	11.0	10.7	10.6	12.3

(※) [評価] ↗ :高い値が良い ↘ :低い値が良い — :どちらともいえない  
 総資金=負債+基本金+消費収支差額 自己資金=基本金+消費収支差額